

第6学年こだわりKids Time (総合的な学習の時間) 活動案

日 時 平成16年9月9日(木) 2校時
場 所 奥中山小学校第6学年教室
対 象 男10名 女12名 計22名
指導者 佐藤 多江子

1 単元名 ハンディングハンド
~やってみよう 考えよう 自分にできること~

2 単元について

(1) 単元について

本校では、総合的な学習の時間で育てたい子ども像を「命を大切にし、よりよく生きる子ども~地域から発し、自然、人、未来と進んで関わりをもてる子ども~」とした。

こうした子ども像の実現に向けて、第6学年では110時間の総合的な学習の時間を下記のように、学級総合・トピックス総合の2つに分けて実施している。

第6学年 総合的な学習の時間年間指導計画	110時間
学級総合	68時間
・ハンディングハンド	
~やってみよう 考えよう 自分にできること~	53時間
・確かめよう 自分の成長と夢	
~卒業に向けて~	15時間
トピックス総合	42時間
・キャップハンディ体験(5月14日に実施)	6時間
・ちびっこ農園(5月~9月中旬)	5時間
・ブナ林観察(7月14日に実施)	6時間
・英語の活動(通年)	25時間

本単元「ハンディングハンド ~やってみよう 考えよう 自分にできること~」は、トピックス総合として6年生に位置付いているキャップハンディ体験(白杖体験・車椅子体験・インスタントシニア体験)をとおして感じたことや考えたことをきっかけとして、今年度の第6学年学級総合のテーマに決定した。

児童の身の回りには、たくさんの方がいて、互いに支え合いながら生きている。その中には、高齢者や体に障害をもっている方など、様々な人々がいる。この世に生を受けたすべての人が、価値ある一人の人間として尊ばれ、差別されたり、偏見の目で見られたりすることなく、共に支え合いながら、精一杯生き、一人一人が生きる喜びを味わえるような社会をめざすことが大切である。

キャップハンディ体験で感じたことや考えたこと、また、今までのみたけ養護学校奥中山校(以後は「みたけ」と省略)の児童や、特別支援教育学級に在籍するA子との交流で学んだことなどを生かし、今の自分にできることは何かを考え、それを実行してみることは、思いやりの心を育てること、自己の生き方について考えることにつながる。このような学習をとおし、他者と進んでかわり、それぞれのよさや違いを理解し、よりよい考え方や行動とは何かを考え、それに向かって行動する児童を育成することができると思う。

(2) 児童の実態

児童は、特別支援教育学級に在籍するA子と、継続して、音楽・英語の活動の時間に交流している。各種学校行事の際も、6年生の一員として活動してきている。また、みたけとは、年間を通じて交流してきている。特に昨年度の交流オリエンテーリング終了後は、昼休み時間にみたけを訪問し、一緒に遊んでくる児童も多く見られた。これまでの交流をとおして、相手の気持ちを考えて行動したり、自分ができることを見つけ、自分から進んでやってみようとする気持ちが育ってきている。また、昨年度まで本校で行われていた個人総合では、点字をテーマに取り組んだ児童も数名いる。家庭では、祖父母と同居している児童が9名いるが、そのほとんどが祖父母とともに家の仕事をしている。

このように、児童は、自分のまわりには、様々な人がいて、互いに支え合いながら生きていることを感じたり、まわりの人に対して「自分ができることはしてあげたい」という気持ちで接している。しかし、その様子を見てみると、自分がやりたいときだけやってあげたり、自分がやってあげたいことをしていることが多く、「今、本当にその人のためになるのはどのようなことか」を考えた言動をしているとは言えない。

このような児童の実態から、最高学年である6年生という時期に、様々な人々とふれ合い、仕事や生き方について学んだり、互いが支え合い、励まし合いながら精一杯生きていることを知ったりすることは、思いやりの心を育てるうえで、また、この世に生を受けた一人一人が生きる喜びを味わいながら生活することができる社会を築くために自分にできることや、やらなくてはならないことは何かを考えるうえで有意義なことであると考える。

(3) 指導にあたって

仮説2とのかかわりから、一人一人が考え、活動し、自尊感情をもつことができるような学習にしたいと考える。

そのため、オリエンテーションとテーマ設定の段階では、中山の園でのキャップハンディ体験をきっかけとし、学んだことや考えたことをまとめた作文や川柳などや中山の園の方からのお話をもとに、テーマと課題を考えさせたい。小テーマ設定の段階では、昨年度までの学習をもとに、テーマや課題を設定するとともに、学習の計画を立案させたい。各グループの学習計画を提示し、全体で行う活動と自分たちのグループでの活動について見通しをもたせるようにさせたい。また、学習のまとめ方（表現方法）についても考えながら活動を進めさせるようにしたい。

課題解決の段階では、全体で体験活動を行い、感じたことや考えたことをもとに、グループごとの計画に基づいて学習を進めるようにする。校外学習実施に向けて、児童だけで活動することができるように、国語で学習した「問い合わせの手紙」の学習などを生かして、訪問時のマナーやインタビューの仕方なども話し合わせながら学習を進めていきたい。また、道徳の時間にボランティア活動している方のお話を伺い、活動に対する関心を高めるようにしたい。中間発表会では、グループの発表を聞くことで、活動を共有させるとともに、学習の経過を学級通信を通じて父母に示し、感想や励ましの言葉をいただき、学習に対する満足感や充実感を得られるようにしたい。中間発表会後は、各グループの活動のよさを自分たちの活動に取り入れさせ、今自分たちにできることは何かを考え、活動させたい。

振り返る段階では、一人一人が活動をとおして考えたことや感じたことを発表させることで、互いに学ばせるとともに、個人新聞としてまとめさせたい。また、協力者へ感謝の気持ちを伝える方法も考えさせたい。さらに、活動をとおして学んだことを生かし、みたけの児童とともに楽しい時間を共有することができるよう自分たちで活動を計画、実施させたい。

3 ねらい

自分たちの課題について調べたり、体験したりする活動をとおして、現在の福祉の実態を知るとともに、自分にできることは何かを考えたり、やってみたりし、自己の生き方について考える。

4 学習活動計画（53時間）

活動の流れ

1 オリエンテーション (6h)
(トピックス総合)

2 テーマ設定 (4h)
・全体テーマ
・個人の課題
・小テーマ

3 課題解決 (29h)
・全体での体験活動
・課題別学習
調べる
試す
まとめる

4 中間まとめ (2h)
活動の共有

5 課題別学習 (13h)
考える
試す
まとめる

6 学習のまとめ (3h)

7 発表会 (2h)

めざす児童像
課題意識をもち、主体的に取り組む
地域や社会に目を向け積極的にかかわりをもつ
自分にできることは何かを考え、実行する

地域の特性
多様な福祉施設が数多く配置されている
福祉への関心が高い
児童は、保育所時代から養護学校や施設の方とのふれあいが多い

中山の園でのキャップハンディ体験
車椅子体験 白杖体験 インスタントシニア体験

ハンディングハンド
～ やってみよう 考えよう 自分にできること～

介助犬	盲導犬	聴導犬	福祉施設
<ul style="list-style-type: none"> ・介助犬の仕事 ・訓練の内容 ・犬の種類 ・介助犬の実態 ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬の仕事 ・訓練の内容 ・犬の種類 ・盲導犬の実態 ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴導犬の仕事 ・訓練の内容 ・犬の種類 ・聴導犬の実態 ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・一戸町にある福祉施設を調べる ・一戸町の福祉施設マップを作る ・報告する

キャップハンディ体験 Part 2 体験のまとめ・・・本時(19/29)			
ボランティアの仕事	生活に便利な道具	福祉施設の仕事	ヘルパーの仕事
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方の話を聞く ・一戸町のボランティア活動について聞く ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えられたねらい ・家庭にある道具 ・共用品について調べる ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を見学して仕事を調べる ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を見学してヘルパーの仕事調べる ・ヘルパーの方の話を聞く ・まとめる ・報告する

中間発表会

自分たちにできることは何かを考えたり、実際にやってみたりする
 ・生活に便利な道具を考える
 ・奥中山のバリアフリーを考える
 ・ボランティア訪問をする

発表会
 お世話になった方をお招きし、課題解決にむけて取り組んだ活動と考えたことを発表する。
 自分や友達のよさに気付いたり、自己の生き方について考えたりする。

成果と課題

教師の働きかけ

キャップハンディ体験を通して学んだことや考えたことをもとに話し合いテーマを決定させる。
 中山の園の職員の方に体験して学んだことや考えたことを作文や川柳にまとめ、感謝の気持ちを伝える活動を通して自分の考えをもたせる。
 グループごとに共通の課題を設定し、活動の見通しをもたせ、計画を立てさせる。
 校外学習実施に向けて自分たちだけで活動することができるよう事前に目的や方法について確認させる。
 訪問時のマナーやインタビューのしかたなどについて話し合わせる。
 国語の「問い合わせの手紙」の学習を生かしてFAXや手紙、電話で連絡を密に取るようにさせる。
 他のグループの活動を共有することができるようにお互いの活動について学ぶ時間を設定する。
 協力者への感謝の気持ちを伝えるため、お礼の手紙を書く。

活動の流れ

1 オリエンテーション
(6h)
(トピックス総合)

2 テーマ設定(4h)
・全体テーマ
・個人の課題
・小テーマ

3 課題解決(29h)
・全体での体験活動
・課題別学習
調べる
試す
まとめる

4 中間まとめ(2h)
活動の共有

5 課題別学習(13h)
考える
試す
まとめる

6 学習のまとめ(3h)

めざす児童像
課題意識をもち、主体的に取り組む
地域や社会に目を向け積極的にかかわりをもつ
自分にできることは何かを考え、実行する

地域の特性
多様な福祉施設が数多く配置されている
福祉への関心が高い
児童は、保育所時代から養護学校や施設の方とのふれあいが多

中山の園でのキャップハンディ体験
車椅子体験 白杖体験 インスタントシニア体験

ハンディングハンド
～ やってみよう 考えよう 自分にできること～

<p>介助犬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介助犬の仕事 ・訓練の内容 ・犬の種類 ・介助犬の実態 ・まとめる ・報告する 	<p>盲導犬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬の仕事 ・訓練の内容 ・犬の種類 ・盲導犬の実態 ・まとめる ・報告する 	<p>聴導犬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴導犬の仕事 ・訓練の内容 ・犬の種類 ・聴導犬の実態 ・まとめる ・報告する 	<p>福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一戸町にある福祉施設を調べる ・一戸町の福祉施設マップを作る ・報告する 	<p>キャップハンディ体験 Part 2 ↓ 体験のまとめ</p> <table border="1"> <tr> <th>ボランティアの仕事</th> <th>生活に便利な道具</th> <th>福祉施設の仕事</th> <th>ヘルパーの仕事</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方の話を聞く ・一戸町のボランティア活動について聞く ・まとめる ・報告する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・考えられたねらい ・家庭にある道具 ・共用品について調べる ・まとめる ・報告する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・施設を見学して仕事を調べる ・まとめる ・報告する </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・施設を見学してヘルパーの仕事を調べる ・ヘルパーの方の話を聞く ・まとめる ・報告する </td> </tr> </table>	ボランティアの仕事	生活に便利な道具	福祉施設の仕事	ヘルパーの仕事	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方の話を聞く ・一戸町のボランティア活動について聞く ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えられたねらい ・家庭にある道具 ・共用品について調べる ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を見学して仕事を調べる ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を見学してヘルパーの仕事を調べる ・ヘルパーの方の話を聞く ・まとめる ・報告する
ボランティアの仕事	生活に便利な道具	福祉施設の仕事	ヘルパーの仕事									
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方の話を聞く ・一戸町のボランティア活動について聞く ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えられたねらい ・家庭にある道具 ・共用品について調べる ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を見学して仕事を調べる ・まとめる ・報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を見学してヘルパーの仕事を調べる ・ヘルパーの方の話を聞く ・まとめる ・報告する 									

中間発表会

自分たちにできることは何かを考えたり、実際にやってみたりする

- ・生活に便利な道具を考える
- ・奥中山のバリアフリーを考える
- ・ボランティア訪問をする

発表会
お世話になった方をお招きし、課題解決にむけて取り組んだ活動と考えたことを発表する。
自分や友達によさに気付いたり、自己の生き方について考えたりする。

7 発表会 (2 h)

5 本時の活動

(1) 本時のねらい

活動から学んだことや考えたことを発表し、次の活動への見通しをもつことができる。
自分や友達の活動や、考え方のよさを見つけることができる。

(2) 評価

障害をもった人の日常生活の不便さや、それを軽減するための介助者の行動の仕方や環境について、感じたり、考えたりすることができたか。

互いの発表を聞き、自分や友達の活動や考え方のよさを見つけることができたか。

(3) 本時の展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 評 価 人権教育の観点から、強調したり留意したりする点	備 考
導 入 5 分	1 体験活動を想起する。 2 本時の活動のめあてを確かめる。	・ビデオをみながら車椅子・白杖・インスタントシニア体験を想起させる。	ビデオ
	キャップハンディ体験 Part 2 から学んだことや感じたことを発表しよう		
展 開 3 0 分	3 グループごとに発表する。 ・車椅子体験グループ ・白杖体験グループ ・インスタントシニア体験グループ 4 中山の園の先生の話聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの発表に必ず一人一人の考えが入るように発表することを確認する。 ・キャップハンディ体験をとおして自分が感じたことや考えたことが聞いている人に伝わるように発表させる。 ・互いの考えの共通点や相違点を見つけながら聞かせるようにさせる。 ・体験をとおして学んだことや考えたことを見つけながら聞くようにさせる。一人一人の思いを大切に聞かせるようにする。自分の思いが伝わるように発表したり、発表者の思いを考えながら聞いたりすることができたか。(観察・発表・学習カード) ・障害をもった人の苦労や日常生活の困難点に気付き、それをどのようにしたら軽減することができるかを考えたり、活動したりしたかという観点で話していただく。 	学 習 カ ー ド 体 験 し た 用 具
終 末 1 0 分	5 感想を発表する。 6 次の活動の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や友達の活動や考え方のよさについて学習カードにまとめ、それをもとに発表させるようにする。キャップハンディ体験や本時の活動をふりかえり、自分や友達の活動や考え方のよさ、改善すべき点について考えさせるようにする。自分や友達の活動や考え方のよさを認め合うことができたか。(発表・学習カード) ・グループごとの課題解決に向けて調べたいことややってみたいことなどを再度考えることを確認し、次の活動への意欲を喚起したい。 	

第 6 学年座席表

車椅子体験グループ

めあて：車椅子に乗っている人と押ししている人の気持ちを考えながら行動しよう。

<p style="text-align: center;">A</p> <p>乗る人の不便さと押す人の大変なところを感じながらやる。 キャップハンディ体験で学んだことが生かされた体験になったかという視点で考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">ボランティアの仕事</p>	<p style="text-align: center;">C</p> <p>体が不自由な人の気持ちを知る。 そばについて、自分の役割に責任を持ってやるように、また、友だちの考え方のよさを見つけながら聞かせるように声をかける。</p> <p style="text-align: center;">ヘルパーの仕事</p>	<p style="text-align: center;">E</p> <p>体の不自由な人はどういうことがどんな気持ちになるのか体験する。 自分の頑張りやよさだけでなくペアを組んだ友だちや他のグループの頑張りや思いやり気付かせる。</p> <p style="text-align: center;">ヘルパーの仕事</p>	<p style="text-align: center;">G</p> <p>車椅子に乗っている人の不便さを考えながら行動する。 車椅子に乗ったとき、どんなことが不便だったかを具体的に話させるようにするとともに、嬉しかった言葉や行動に気付かせ、気付いたことを認める。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>
<p style="text-align: center;">B</p> <p>車椅子に乗って体の不自由な人の気持ちを考える。 障害をもった人の気持ちを考えながら発表を聞かせるとともに、自分の考えを発表するように励ます。</p> <p style="text-align: center;">ボランティアの仕事</p>	<p style="text-align: center;">D</p> <p>体の不自由な人の気持ちになってみる。 障害をもった人の不便さを回避するための方法について考えさせるようにする。</p> <p style="text-align: center;">ボランティアの仕事</p>	<p style="text-align: center;">F</p> <p>車椅子に乗っている人と押ししている人の気持ちを考える。 障害をもった人が生活する上で、困難点を見つけさせ、自分ができることは何かという視点で考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>	<p style="text-align: center;">H</p> <p>体の不自由な人はどんなことが大変かを考えながら行動する。 自分の考えや、見つけた友だちの考え方のよさを進んで表現するよう励ます。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>

白杖体験グループ

めあて：目が見えない人は何が一番大変なのかを調べ、それをどうやったらなくすることができるか考えよう。

<p style="text-align: center;">I</p> <p>不便なこと、便利なことは、どういうところかを学ぶ。 障害をもった人と介助者の気持ちを考えさせるとともに、自分ができることは何か、どのような言動がよいかを考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">ヘルパーの仕事</p>	<p style="text-align: center;">K</p> <p>白杖で歩いている人の気持ちや声をかけている人の気持ちを考えながら体験してくる。 障害をもった人の不便さや困難点を理解させるとともに、自分の声かけや行動のよさに気付かせる。</p> <p style="text-align: center;">ヘルパーの仕事</p>	<p style="text-align: center;">M</p> <p>どこが大変でどこが便利かを考えて行動する。 障害をもった人の気持ちを考えさせる。自分達にできることは何か、どのような言動がよいかを考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>	<p style="text-align: center;">O</p> <p>目の見えない人に不便なところや便利なところを探しながら行動する。 不便なところ、困難点を回避するために自分達にはどんなことができるだろうという観点で考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>
<p style="text-align: center;">J</p> <p>不便なところはどこを学ぶ。 障害をもった人が生活することの困難点に気付かせ、自分達にできることは何かを考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">ヘルパーの仕事</p>	<p style="text-align: center;">L</p> <p>かけてもらってうれしかった言葉や行動を考える。 自分達にできることは何か、どのように行動していきたいかを考えさせることで次の課題への意欲を喚起する。</p> <p style="text-align: center;">ヘルパーの仕事</p>	<p style="text-align: center;">N</p> <p>不自由なところを学んでどのような手助けをすればいいか考える。 みんなと協力して発表させるとともに、活動と考えるよさを話し、自分のよさに気付かせ励ます。</p> <p style="text-align: center;">福祉施設の仕事</p>	<p style="text-align: center;">P</p> <p>目の見えない人の気持ちを考えながら行動する。 障害をもった人が生活することの困難点を具体的に気付かせるようにする。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>

インスタントシニア体験グループ

めあて：インスタントシニア体験をとおして老人の気持ちを考え、自分たちにできることは何かを考えよう。

<p style="text-align: center;">Q</p> <p>体験を通して老人の気持ちを考え、まとめに役立てる。 障害をもった人や介助する人の気持ちを聞くことで、自分たちはどのように行動すればよいか考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">ヘルパーの仕事</p>	<p style="text-align: center;">S</p> <p>インスタントシニア体験を通して老人の気持ちを考える。 障害をもった人の気持ちを考えさせるとともに、これからどのように行動していけばよいかを考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>	<p style="text-align: center;">U</p> <p>体の不自由な人の不便さや気持ちを考えながら体験する。 不便なことや困難点を具体的に話させるとともに、友だちにかけてもらって嬉しかった言葉や行動を考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>	<p>キャップハンディ体験時、上下でペアを組んで実施 -----の下はキャップハンディ体験後の課題 キャップハンディ体験 part 2 のめあて 支援</p>
<p style="text-align: center;">R</p> <p>街で足や手などが不自由だと不便なところはどこか考えて行動する。 自分ができることは何か、どのように行動していきたいかを考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>	<p style="text-align: center;">T</p> <p>インスタントシニア体験を通して老人の気持ちを知らない。 活動や考えのよさを話し自分のよさに気付かせる。障害をもった人の気持ちを考えさせるとともに、自分達ができることについて考えさせる。</p> <p style="text-align: center;">生活に便利な道具</p>	<p style="text-align: center;">V</p> <p>体の不自由な人の気持ちを考えながら行動する。 活動への取り組み方や考えのよさを話すことで、自分の変化や頑張り気付かせ、励ます。</p> <p style="text-align: center;">福祉施設の仕事</p>	